

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	20-A1 現代経済と企業活動		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	現代経済と企業活動 a	現代経済と企業活動 b	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	村山 洋介	責任部局	経済学部
趣 旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立しています。そして、この経済活動は様々な法律によって規制され、公平で公正な経済活動の実現が図られています。本モジュールの履修により、経済活動と法律の関わりを法律学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能になります。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問いませんが、経済や法律について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望します。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講してください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
契約と法規制	村山 洋介	取引に関する私法上のルールを概観する。また、具体的な事例を素材にして、法の適用、解釈を学習する。これらを通じて、経済活動と法の関わりを理解する。	取引、私法、契約自由の原則
生活・経済活動と法	井畑 陽平	生活や経済活動をする上で生じる問題について、法律が、実際どのように解決しているのかを学習する。	民法、刑事法、行政法
租税と社会	未定	租税の概略について、社会との関わりに触れつつ解説する。このことを通じて、租税の社会における役割などを理解する。	租税、税、税金

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	A 取り扱う 人文科学の内容を	B 取り扱う 社会科学の内容を	C 取り入れる 現代的な話題を	D アクティブ・ラーニングの活用
契約と法規制	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○		◎	◎	○
生活・経済活動と法	◎		○	○	◎	○			○			◎	○	
租税と社会	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	◎	◎	
◎(特に重視)の数	3	1	1	2	3	0	0	0	0	1	0	3	2	0
○(重視)の数	0	1	2	1	0	3	2	2	3	1	1	0	1	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	20-A2 環境と人類の持続可能な発展		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	環境マネジメント		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	山下 敬彦	責任部局	研究開発推進機構
趣旨	21 世紀市民のコモンセンスとして環境配慮への理解と環境保全に関する基本的な知識を修得し、人類の持続可能な発展 (sustainable development, SD) を実現するための基本的な姿勢を身につけることを目的としている。そのため、環境問題の考え方や環境関連の国際法および国内法の精神を理解するとともに、環境教育・環境コミュニケーションの重要性を理解することを目的としている。		
学生の皆さんへのメッセージ	私達 21 世紀市民が目指すのは、人類の持続可能な発展 (sustainable development, SD) です。そのためには、環境保全に関する基本的な知識が必要です。それらは、21 世紀市民が教養として身につけておくべきコモンセンスです。本モジュールは、そのような観点から環境保全に関する理解と基本的な知識について学習します。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
国際環境法	山下 敬彦	環境問題に対する考え方、環境法(国際法)の歴史と特質およびそれらの概要について学習し、環境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神について理解を深める。	環境問題の基本的考え方、人間環境宣言、国際環境法
国内環境法 I	竹下 哲史	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史、国際環境法との関係ならびに、日本における環境に関する基本的法律である「環境基本法」等について学習し、進むべき方向やとるべき行動等について理解を深める。	日本の環境問題、環境基本法、環境教育、進むべき方向ととるべき行動
国内環境法 II	久保 隆	「大気汚染防止法」、「水質汚濁防止法」や「環境配慮に関する法律」など国内の環境関連法について学習し、環境保全や環境コミュニケーションの重要性について理解を深める。	環境保全、環境コミュニケーション、日本のエネルギー事情

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点							
											A	B	C	D				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	関心	国際・地域社会への	取り扱う	人文科学の内容を	取り扱う	社会科学の内容を	取り入れる	現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
国際環境法	◎	◎	○	○	○	◎	◎		○	◎		○	○	○	○	○	○	○
国内環境法 I	◎	◎	○	○	○	◎	◎		○	○			○	○	○	○	○	○
国内環境法 II	◎	◎	○	○	○	◎	◎		○	○			○	○	○	○	○	○
◎(特に重視)の数	3	3	0	0	0	3	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
○(重視)の数	0	0	3	3	3	0	0	0	3	2	1	3	3	3	3	3	3	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	20-A3 日本を知り、世界を知る		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	社会と文化の多様性	文化の交流と共生	
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	野上 建紀	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本（と日本人）を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にもなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「日本を知り、世界を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
日本のことばと世界のことば	原田 走一郎	日本語は敬語があって美しい、などと言われるが本当だろうか。そんなことを言う人は言語に対する知識が決定的に欠如している、ということが本講義を受ければわかる。日本で使用されている言語を世界の言語という文脈で観察することで、自分自身の言語を相対的に見る訓練をする。	言語学 言語類型論 方言
世界と日本の陶磁器文化交流	野上 建紀	考古学の資料の中でも陶磁器は、最も重要なものの一つである。世界各地で生産され、それぞれの地域や時代を映す「鏡」となっている。そのため、陶磁器を観察すれば各地域の文化や相互の影響関係も理解することができるのである。陶磁器を通して、その背後にある文化交流を読み解き、日本と世界の関わりについて理解を深める。	陶磁器 文化交流 考古学
アフリカ入門	増田 研	アフリカには、紛争、教育、貧困、健康に関する、この世界の矛盾や課題が凝縮している。他方で、現代のアフリカは飛躍的な経済発展を遂げ、過去25年間で人口は倍増した。この講義では世界史におけるアフリカの政治的・経済的な位置づけを理解し、かつ、日本とアフリカの将来のかかわり方について議論を行う。	サブサハラアフリカ 世界史 開発途上国

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
日本のことばと世界のことば	◎						◎			○	◎			○
世界と日本の陶磁器文化交流	◎						◎			○	◎			○
アフリカ入門		○		○	◎		○		○	◎		○	○	○
◎(特に重視)の数	2	0	0	0	1	0	2	0	0	1	2	0	0	0
○(重視)の数	0	1	0	1	0	0	1	0	1	2	0	1	1	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目